

①取組基本方針

公園の特色を活かす

- 山田池や春日山など、地域の歴史と風土に根差した自然の保全と活用
- ハナショウブをはじめとする日本の伝統的な園芸植物の保全と活用

民間活力の導入

- 自然体験を促進する施設や機能の充実により賑わいを創出する公園
- 学校や企業、地域住民と連携した農耕体験等の公園の特徴を活かしたイベントの充実

安全・安心・快適

- 広域避難場所として、周辺地域の避難者を地震発生時の市街地火災等から守る公園
- 後方支援活動拠点として、自衛隊や消防隊・警察の支援部隊の救出・救助活動拠点等の役割を果たす公園

都市の環境を保全

- 山田池の生き物の生育空間を守るなど、水辺景観を活かした憩いの場を提供
- 里山景観や野生生物の生育環境を保全し、ふれあう場の提供

②ゾーンの設定



③ゾーン別の方針

自然ゾーン（山田池）

- 貴重なみどりの拠点として山田池や里山の自然環境を保全・活用するゾーン

自然ゾーン（学習）

- ハナショウブなどの栽培・展示により伝統的な園芸植物などについて学習するゾーン

自然ゾーン（体験）

- 農作物（花、竹、野菜）の栽培など自然体験を通じて公園の自然や恵みを楽しむゾーン

賑わい創出ゾーン

- 開放感がある芝生の広場を中心として、イベント等を通じて賑わいを創出するゾーン

<参考>公園の概要

概要：山田池公園は、区域のほぼ中央を東西に走る市道によって二分され、山田池を中心に樹林・竹林地帯が広がる北地区と、開放的な芝生広場がある南地区で構成される。このような自然環境をできるかぎり生かしつつ、都会では味わうことのできない自然を満喫できる『広域公園』をめざして、公園の整備を進めている。

- 開設面積：73.7 ha
- 年間利用者数（令和5年度）：約138万人
- 開設年度：昭和54年10月1日
- 主要施設：水生花園（花しょうぶ園・あじさい園・スイレン池）、水辺広場、展望広場、もみじ谷、花木園、芝生広場、自由広場、クイーンズロードガーデン、コテージガーデン、パークセンター、山田池美月橋、川原広場

④取組の主な方針

運営管理の方針

- 山田池や春日山の自然を活かした自然体験型イベント等のプログラムの充実。
- みどり豊かな園内での散策や軽運動など、心とからだの健康づくりが楽しめるよう、スポーツ教室等の取組みの充実。
- 奥の里の棚田での稲作などの栽培から収穫、加工し食するまでを体験するイベントプログラム等の取組の充実。
- 飲食機能の充実や園路アクセス機能の向上を通じて、新たな魅力や付加価値により、にぎわいを創出。

維持管理の方針

- 春日山をはじめとした三つの山は傾斜が緩やかであるため、散策路やレクリエーション広場としても活用できるように維持管理を行う。
- 明るく開放的な林内空間を確保し、森林の奥行きを感じさせるように樹木管理を行う。
- ハナショウブをはじめとした伝統園芸植物について、品種の保存と育成を進め、長期的展望にたった計画的な植物管理を行う。



①取組基本方針

公園の特色を活かす

- ・南河内の豊富な歴史・文化遺産を活かし、地域の活性化、まちの魅力を向上させる公園

民間活力の導入

- ・長大な河川空間を活用したウォーキングやサイクリングなど様々なプログラムが展開される公園

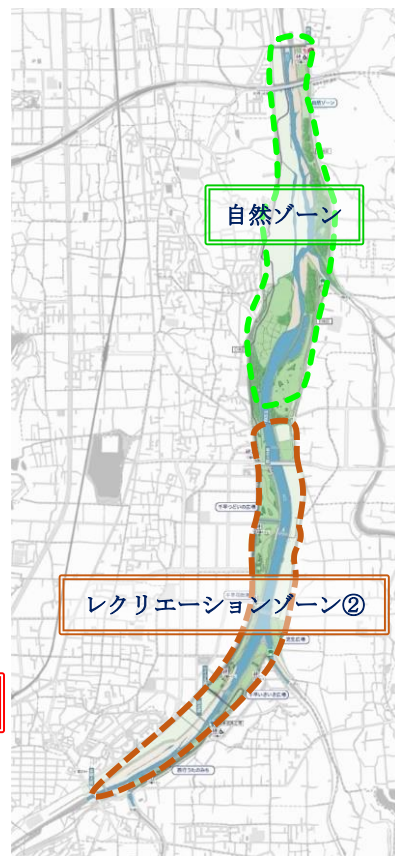
安全・安心・快適

- ・広域避難場所として、周辺地域の避難者を地震発生時の市街地火災等から守る公園

都市の環境を保全

- ・南河内の貴重な水辺の生き物を地域の人々とともに保全、再生、創出し地域の人々に紹介する公園
- ・川の自然とふれあうことのできるソフト事業が展開される公園

②ゾーンの設定



③ゾーン別の方針

賑わい創出ゾーン

- 近鉄南大阪線駒ヶ谷駅や駐車場から近く、パークゴルフ場や児童遊戯場などの施設があり、賑わいを創出するゾーン

自然ゾーン（歴史学習）

- あすか花回廊やあすか歴史の里など歴史をテーマに散策等を楽しむ静的なゾーン

レクリエーションゾーン

- 道明寺駅から近く、臨時駐車場もある星の広場や玉手橋であいの岸辺等を有し川の広がりを感じるゾーン
- 富田林駅から近く、西行うたのみち、健康遊具広場等を有し、のんびり散歩や健康づくりの機会を提供するゾーン

自然ゾーン

- ミソウジュやカヤネズミ等の絶滅危惧種をはじめとする石川の生物に配慮し、サンクチュアリとしての保全や、水辺の自然に触れ合う機会を創出するゾーン

④取組の主な方針

運営管理の方針

- ・歴史をテーマにした園内のエリアを活用し、歴史と風格、自然を感じる場として、地域の歴史的資源と連携した取組を推進。
- ・広い園内に点在する健康遊具等を有効に活用するとともに、ウォーキングやサイクリングと組み合わせた多彩なプログラムを展開。
- ・ミソウジュ・カヤネズミ等、石川の貴重な種の生育環境を保全し、流域の生態系に配慮しながら豊かな水辺空間を創出。

維持管理の方針

- ・河川敷を活用した公園であるため、計画的に植栽した樹木以外の実生木は、流水阻害とならないよう小さなうちに除去。
- ・パークゴルフ場のグリーン・フェアウェイ・ラフ・バンカー等その機能に応じた適切な管理を行い、常に良好な状態を維持。
- ・飛鳥時代を演出し、明るく楽しい田園的風景を保つため、園路からの近景、中景、背景の景観構成に留意した維持管理を実施。

<参考>公園の概要

・概要：南河内地域を流れる一級河川石川の河川敷を利用した公園で、4市1町にまたがり11.6Kmの延長を持つ長大な大阪府営唯一の河川公園であり、左岸側の園内では南河内サイクルロードと隣接している。「南河内地区の自然・歴史・風土に根ざした総合的な水辺環境の創造」を基本とする「石川あすかプラン」を基本構想として、「自然と歴史に親しめる水辺の公園」として整備された。

- ・開設面積：73.7 ha
- ・年間利用者数（令和5年度）：約20万人
- ・開設年度：平成7年4月1日
- ・主要施設：パークゴルフ場、玉手橋であいの岸辺、星の広場、あすか花回廊、西行うたの道、自然ゾーン、児童遊戯場



①取組基本方針

公園の特色を活かす

- ・住吉大社と連携し、日本最古の公園としての歴史資産・景観を保全し、国内外からの観光客を誘致する公園

民間活力の導入

- ・公園の利便性向上や施設機能の向上等、民間活力を導入し、利用者サービスと公園機能の向上を図る公園
- ・地域、民間との連携により、一年を通じてイベントを開催する公園

安全・安心・快適

- ・ユニバーサルデザインの充実とともに、良好な維持管理による快適な園内空間を生み出す公園

都市の環境を保全

- ・都心部に位置する貴重なみどり空間として、園内の自然環境を保全し、さらなるみどり空間を創出する公園

②ゾーンの設定



③ゾーン別の方針

賑わい創出ゾーン

- 南海本線住吉大社駅に隣接しており、駅前広場周辺及び桜広場を中心として賑わいを創出するゾーン

レクリエーションゾーン

- 都心部にある貴重なみどり空間を活用し、子どもから大人までが様々なアクティビティを楽しむことができるゾーン

スポーツゾーン

- インドアスポーツが可能な体育館をはじめ、多様なスポーツ施設を活用して府民の健康増進を図るゾーン

歴史景観保全ゾーン

- 住吉大社の参道に続く汐掛道や高灯籠、明治時代の面影を残す心字池などの歴史景観を保全するゾーン

④取組の主な方針

運営管理の方針

- ・住吉大社に隣接し、園内に歴史的建造物等を多く有することから、周辺地域と一体となった歴史的・文化的価値の情報発信等を実施。
- ・公園の特徴的な景観である心字池周辺のマツや汐掛道の並木などの植栽管理を通じて、歴史的景観の保全・発信を実施。
- ・身近な自然とのふれあいや環境学習など、自然の恵みを実感できる活動を推進。

維持管理の方針

- ・現在も歴史的風情をとどめる「汐掛道」や「花と水の広場」を中心に草花で彩り、公園のシンボルエリアにふさわしい景観づくりを実施。
- ・桜広場は公園唯一の広場で、バーベキューが可能な場所であり多くの来園者で賑わうことから、適正な維持管理と利用調整を実施。
- ・公園開設当初からある心字池は、大正、平成と改修され、現在までその面影をとどめているため、歴史的な景観に配慮した管理を実施。

<参考>公園の概要

・概要：住吉公園は、大阪市の南西部に位置し、日本で最も古い公園のひとつとして、明治6年8月2日に開設された。面積は8.0haと府営公園では最も小さい公園でありながら、体育館や野球場、テニスコート等の運動施設をはじめ、心字池や花と水の広場、壁泉等の水を使った修景施設など多様な施設がある。また、市街地の中であって駅に隣接し、住吉大社も近いことから、日常的に多くの人々が訪れている。

- ・開設面積：8.0 ha
- ・年間利用者数（令和5年度）：約85万人
- ・開設年度：明治6年8月2日
- ・主要施設：テニスコート、軟式野球場、児童遊戯場、花と水の広場、桜広場、体育館、集会所
- ・P-PFI施設：飲食施設（R6年度営業開始）



①取組基本方針

公園の特色を活かす

- ・市街地の広大な森林の中で、府民が身近な自然との対話や交流を生み出す公園
- ・多様な施設と広大な空間を活用し、スポーツ、緑化などの地域拠点となる公園

民間活力の導入

- ・公園の豊かな緑の中で、ウォーキングやジョギングを快適に楽しめる公園
- ・広大な園内の広がりや景観を活かし楽しむことができるイベントや飲食サービスの提供など利用者サービスの向上を図る公園

安全・安心・快適

- ・広域避難場所として、発災時に周辺地域の避難者を市街地火災等から守る公園
- ・後方支援活動拠点として、自衛隊や消防隊・警察等の支援部隊の活動拠点の役割を果たす公園

都市の環境を保全

- ・市街地に創出した都市林として樹林地や草地、池などの自然空間を楽しむプログラムを展開し、自然の大切さを伝える公園
- ・都市林を守り育てるとともに、その活動を府民が楽しむことができる公園

②ゾーンの設定



③ゾーン別の方針

賑わい創出ゾーン

- 駅から続くエントランス空間として、公園の森と一体となった賑わいを創出するゾーン

レクリエーションゾーン

- 遊戯場や桜広場といった子どもから大人までがアクティビティを楽しむことのできるゾーン
- 大芝生広場を活用した様々なイベント等を展開できるゾーン

スポーツゾーン

- 森の中でスポーツやレクリエーションを楽しむことのできるゾーン

自然ゾーン

- 都市にある大規模な森を活かし、自然との触れ合いを楽しむことのできるゾーン

<参考>公園の概要

- ・概要：本緑地は、堺、松原両市にまたがり、昭和16年に大阪都市計画緑地として計画決定された大阪四大緑地の一つである。公園整備の基本構想として森林を主体とした公園とすべく昭和43年そのマスタープランを全国に公募し、基本計画を作成。昭和44年より本格的な造成事業を開始した。本緑地は緑の少ない都市環境にあって、四季の変化を植栽によって現し、緑溢れる自然豊かな公園として親しまれている。
- ・開設面積：101.5 ha
- ・年間利用者数（令和5年度）：約300万人
- ・開設年度：昭和47年4月1日
- ・主要施設：テニスコート、野球場、スポーツ広場、サイクルどろんご広場、ふれあいの庭、大芝生広場、かきつばた園、桜広場、野外炉、花と緑の相談所

④取組の主な方針

運営管理の方針

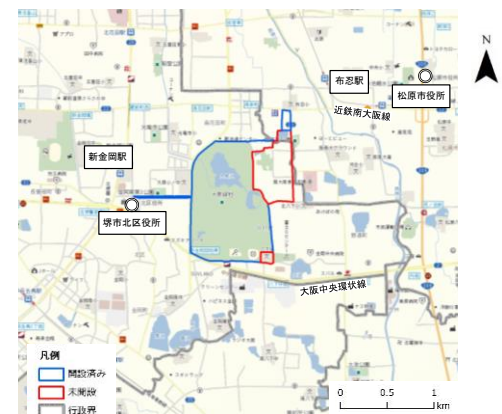
- ・大芝生広場などの空間を活用してイベントを誘致し、都市の中の広大な森と広場の公園として全国に発信するなど公園利活用を推進。
- ・都市林として、林内で身近な自然との対話や交流を介したレクリエーションの場となる健全で快適な森づくりを推進。

維持管理の方針

- ・かきつばた園は、全国でも数少ない施設であり、カキツバタの性質を理解・研究し、公園の主要な見所施設として適切な管理を実施。
- ・あらゆる人が四季の草花をいつでも、五感で楽しむことができるふれあいの庭について、機能を維持・発展すべく質の高い維持管理を実施。
- ・南大阪地域の緑化相談拠点として、緑化相談・支援の強化を推進。
- ・アーバンスポーツの施設など、時代・ニーズに応じた施設整備に対応。

整備改修の方針

- 南花田地区の新規整備
- ・防災公園としてのさらなる機能強化のため、松原地区側への延伸整備を図る。



周辺見取り図 ベース図：NTT空間情報(株)

【概要版】蜻蛉池公園マネジメントプラン（案）

『園内の様々な花や緑の豊かな丘陵地の景観の中で、多様なレクリエーションが満喫できる公園』

①取組基本方針

公園の特色を活かす

- ・泉州地域の緑豊かな丘陵地の景観とため池の景観の中で地域住民が憩う公園
- ・運動施設や四季折々の花の景観などを活用した地域の魅力づくりに貢献する公園

民間活力の導入

- ・ため池や丘陵の景色を愛でながら飲食機能の充実等によりくつろぐことができる公園
- ・遊戯施設などの施設が充実し、多様なアクティビティを年中楽しめる公園

安全・安心・快適

- ・広域避難場所として、周辺地域の避難者を地震発生時の市街地火災等から守る公園
- ・後方支援活動拠点として、自衛隊や消防隊・警察の支援部隊の救出・救助活動拠点等の役割を果たす公園

都市の環境を保全

- ・園内の竹林やため池、里山景観を守り、観察会やナイトツアー、子供向けの体験ツアーなどのプログラムを展開する公園
- ・常にバラ、アジサイ、スイセン等の花景観を充実させ、新たな花の魅力を伝える公園

②ゾーンの設定



③ゾーン別の方針

賑わい創出ゾーン①②

- 多様な花を中心とし、四季を通じて自然景観を楽しむことができるゾーン
- 大芝生広場やタワー滑り台等の子どもから大人までがアクティビティを楽しむことができるゾーン

スポーツゾーン

- 運動施設を活用するなど、府民の健康づくり習慣を促進するゾーン

自然ゾーン

- 公園の特色であるため池や丘陵の自然景観を楽しむゾーン

自然ゾーン（体験）

- あじさい園、花木園、水仙郷等の様々な花を活用し、自然とふれあう機会を創出するゾーン
- 昆虫を模した特徴的な遊具などにより、自然を学び、楽しむことができるゾーン

④取組の主な方針

運営管理の方針

- ・水面・芝生地、樹林からなる重層的で開放感のある景観づくりを推進し、丘陵地形の起伏を活用した、山林の緑豊かな景観を演出。
- ・里山の景観の保全に努め、これらを適切に活用し、ゾーン区分に応じた自然環境の保全・創出と自然環境学習の場を提供。
- ・学識経験者、ボランティア団体、地域住民等、地域と公園の連携について協議する場を活用した公園の魅力向上の取組を推進。

維持管理の方針

- ・老木化した樹木の更新や密集樹林地の整理、竹林の間伐など効果的・効率的な樹木再整備と景観維持への取組を推進。
- ・バラ園、あじさい園、水仙郷、花木園などの花木を良好に管理し、四季を通じて見ごたえのある景観づくりを推進。
- ・アジサイ園は生育条件に応じた継続的な管理を行い、長期的展望に立った計画的な植物管理を実施。

整備改修の方針

- 自然ゾーン（一部）の新規整備
- ・民間活力を導入しながら、既存の丘陵地の景観とため池の景観を活かした広場や園路等を整備

<参考>公園の概要

概要：蜻蛉池公園は南部岸和田市の中央部に位置し、公園の名称の元となった蜻蛉池をはじめ箱谷池、七つ池、大池、隣徳池など大小30余の溜池を抱えた標高50～110mの緩やかな丘陵地に位置している。南部には「花と水とスポーツ」をテーマにした広場ゾーンを、中央部には景観を楽しむ丘陵ゾーンを設けることとしており、既存の樹林地や溜池を活かした総合的な公園をめざしている。

- ・開設面積：65.0 ha
- ・年間利用者数（令和5年度）：約100万人
- ・開設年度：平成3年6月30日
- ・主要施設：テニス村（テニスコート・球技広場）、子供の国、水と緑の音楽広場、花木園、あじさい園、水仙郷、スポーツハウス



周辺見取り図

ベース図：NTT空間情報研

【概要版】りんくう公園マネジメントプラン（案）

『閑空の対岸という立地を活かし、周辺の集客施設と一体となった観光拠点となる公園』

①取組基本方針

公園の特色を活かす

- 日本の玄関口として公園の景観を活かし、海外からの観光客に「日本」を感じてもらえる公園
- 周辺商業施設や駅、ホテル等と連携したプログラムやアクティビティを充実する公園

民間活力の導入

- インバウンドも意識した、海を活用したレクリエーション機能の充実を図る公園
- 公園の豊かな緑の中で、飲食などの新たな機能・サービスの提供により一層くつろぐことができる公園

安全・安心・快適

- ユニバーサルデザインの充実とともに、良好な維持管理による快適な園内空間を生み出す

都市の環境を保全

- 海辺の自然景観を守りながら維持管理を進めるとともに、地域と連携した運営を実践

②ゾーンの設定



③ゾーン別の方針

賑わい創出ゾーン①

- りんくうタウン商業施設や宿泊施設、駅との連携により公園と周辺地域が一体となって賑わいを創出するゾーン

自然レクリエーションゾーン

- 日本の海岸風景である白砂青松を楽しむことができる、地域を代表する景観拠点となるゾーン

賑わい創出ゾーン②

- 海辺の景観や地域資源を活用した楽しみ方ができるゾーン
- 南北の公園エリア・周辺地域資源との連携により、賑わいと交流を創出するゾーン

④取組の主な方針

運営管理の方針

- 国際都市大阪の玄関口にふさわしい、りんくうタウン商業施設や駅、近隣ホテルと連携した積極的なPRの推進を図る。
- 美しいパノラマ景観を活用し、民間事業者等による飲食機能の充実など、新たなサービスを提供することで地域の賑わいづくりを支援する。
- 高齢者や子育て世代など、来園者の多様な特性にあわせたボランティアによるサポートなどの柔軟なサービスの提供や関連施設の充実を図る。
- 海の景観を遠景に岩の間に植栽された草花を楽しむ「花街道」等、園内の花壇を活かして、全体の景観への相乗効果を演出する。

維持管理の方針

- シンボル緑地（花海道）は、様々な来園者に利用され、1年を通じて花の美しい花壇となるよう、長期的な視点で維持管理を行う。
- シーサイド緑地北地区は、平安時に書かれた「作庭記」に見られる風景がイメージできるよう、風景の維持や適切な植物管理を行う。

整備改修の方針

- 中地区の新規整備
 - ・開設エリアとの景観調和（緑の骨格軸の形成）や公園と海、まちをつなぎ、賑わいと交流の創出の場となるよう中地区の整備を推進する。

<参考>公園の概要

・概要：本公園は関西国際空港の対岸に位置し、泉佐野市、田尻町両域（計画区域は更に泉南市を含む）にまたがり、世界に開かれた空港の玄関口として、魅力ある都市景観の創出や快適環境の創造を目指して整備され特にユニバーサルデザインを導入して施設整備を図っている。主な施設としては、シンボリックな太鼓橋、四季の泉、花海道などがある。眺望抜群のこの公園からは関西国際空港より飛び立つ飛行機、遠くに淡路島等が望める。

- ・開設面積：20.4 ha
- ・年間利用者数（令和5年度）：約54万人
- ・開設年度：平成8年10月1日
- ・主要施設：内海、花海道、噴水、太鼓橋、夕日見える丘、総合休憩所、秋の休憩所、駐車場、売店、便所、公園管理事務所、倉庫



『海辺の環境を活かし、海の豊かさや地域の魅力を発信できる公園』

①取組基本方針

公園の特色を活かす

- ・美しい海辺の景観を活かした取り組みの充実を図る公園
- ・海辺の生き物を安全に観察できるプログラムやアクティビティの充実を図る公園

民間活力の導入

- ・地域ボランティア等との連携による、豊かな海の環境を手軽に実感してもらえる公園
- ・公園の周辺施設や地域で活動する団体との連携、地域資源を活用した取組等により、地域の魅力を高める公園
- ・公園の特色である海辺の景観や環境を活用した飲食やレクリエーション等のサービス機能の充実を図る公園

安全・安心・快適

- ・ユニバーサルデザインの充実とともに、良好な維持管理による快適な園内空間を生み出す公園

都市の環境を保全

- ・うみべの森やさとうみ磯浜、しおさい楽習館等を活用し、各種ボランティアとの連携による保全活動や体験型プログラムを提供する公園

②ゾーンの設定



③ゾーン別の方針

賑わい創出ゾーン

- 「潮騒ビバレー」を活用し、地域の賑わいづくりの拠点となるゾーン
- さとうみ磯浜と内海でのマリッジスポーツを通じて賑わいを創出するゾーン

レクリエーションゾーン

- 海辺の景観や環境を活かした、さまざまなレクリエーションの場となるゾーン
- 潮騒ビバレーなどの既存施設や広場などを活用し、公園の周辺施設や地域で活動する団体と連携した取組等を進めるゾーン

自然ゾーン

- 磯浜や自然海岸林など、海や陸に生息するさまざまな生物や豊かな自然を体験できるゾーン

④取組の主な方針

運営管理の方針

- ・ビーチバレーだけでなく、ビーチサッカーやビーチテニスなど、ビーチコートを活用した新たなニーズへの対応を図る。
- ・公園で活動するボランティア団体や大学等の協力を得て、公園に生息する貴重な陸ガコの調査や生育環境の改善を図る。
- ・さとうみ磯浜は、花崗岩の岩組でできており危険性が高いことから、危険区域への立ち入りの制限や巡視による安全な利用指導に努め、利用者に安全に楽しんでもらえるように啓発する。
- ・うみべの森を活用した、各種ボランティア団体との連携による、小中学校等の遠足や修学旅行への体験型プログラムの提供を図る。

維持管理の方針

- ・海浜植物及び陸ガコについては、常に観察し、保存に努める。
- ・しおさい楽習館を希少動物の観察拠点として活用する。
- ・潮騒ビバレーは、海洋レクリエーションの拠点施設としての機能を常に果せるよう、適正な維持管理に努める。

<参考>公園の概要

- ・概要：阪南市・岬町にまたがる淡輪・箱作海岸とその後背地からなり、泉州地域を代表する「海と人の新しいふれあいの場」、また、海と人が慣れ親しむことができる「里海」として整備された。夏期には、箱作海水浴場、淡輪海水浴場により賑わいがある。主な施設としてビーチバレー競技場や、海辺の生き物や海浜植物などを観察できる人工磯浜などの整備を行い、隣接しているヨットハーバー・府立青少年海洋センターなどのマリンスポーツ施設とともに「海洋性レクリエーションの拠点」となる公園をめざしている。

- ・開設面積：40.1 ha
- ・年間利用者数（令和5年度）：約31万人
- ・開設年度：平成9年7月1日
- ・主要施設：里海広場、多目的広場、うみべの森、さとうみ磯浜、遊戯広場2か所、ビーチバレーコート（潮騒ビバレー）、駐車場、便所、公園管理事務所、しおさい楽習館、車庫、倉庫

